



『小さきものに幸あれ』

秋田県梅花流の関係の皆様には、日頃より師範詠の会にご協力賜り誠に有り難うございます。図らずも本年の総会にて会長を拝命いたしました。自分が何ができるか、自分でも良くわかっておりませんが、職に就いたからには、微力ながら師範・詠範の会の発展に努力してまいります所存です。

前会長・本間雅憲師範におかれましては、十二年の長きに渡り会長をお勤めいただき、指導者の育成はもとより県内の梅花流発展にご尽力賜りましたことに心より感謝申し上げます。今後ご教導賜りますようお願い申し上げます。

本年三月には、元師範会副会長・恵林寺東堂・本間俊英師範が遷化されました。師は秋田県梅花流五十周年記念誌の編集を一手に引き受け、県内梅花流の細部にわたって調査し、見事な記念誌を作りあげました。本間俊英師範の梅花流における多大なるご功績に敬意を表すると共に、品位を増崇せんことを心から祈念するばかりであります。

残念乍ら梅花流において、講員数は減少の一途をたどっております。その中でも人口減少全国一である秋田県の現状は容易に想像できます。このままでは消滅してしまうのではないかとという危機感は、梅花流にかかわる者なら誰もお持ちなのではないでしょうか。随分前から宗門でも問題視し対策を講じてきましたが歯止めがかかっておりません。私もどうにかならないかと考えを巡らしているのですが、名案は浮かびません。もしかしたら特効薬はないのかもしれない。日頃より少しでも梅花流のPRになればと、お唱えるチャンスがあれば必ずお唱えしています。

「御詠歌つていいな」とは言っていただけなのですが、では自分という方はほとんどいません。新規講員募集と全檀家に広報しても空振りばかりでした。私の努力不足力不足も勿論ありますが、全国的な減少状況を見ますとそれだけではないと思います。しかし、致し方ないとも何とせざるに在るわけにはいきません。

そこで、現存する講の講員増加が難しいのであれば、講を増やすしかない、そのためには指導者を増やすしかないという思いで始めたのが、秋田県宗務所における指導者養成所です。お陰様で師範・詠範の裾野は広がりをみせつつあり、優秀な人材も育ちました。今後も続けていくことによって、講員増とはいかなくても減少に歯止めをかけられるのではないかと期待しております。同行をご覧の僧侶・寺族の皆様も是非受講を検討していただければ幸いです。

師範・詠範の会の事業として、特に講員一泊講習会は大事にしていかなければいけないと思っております。講員減少に伴い参加人数も少なくなりましたが、何らかのてこ入れをし、もう少し盛り上がりを見せなければと色々と策を考えております。とにかく梅花流の楽しさを皆様にお伝えできればという思いです。講習会楽しかった、また来たい、お友達に勧めたいと思われるような講習会にしたいと思っております。

色々考えてはおりますが、元より浅学菲才怠け者の私ですので、全く自信はありません。会員各位のご指導ご助力を賜り、事務局には尻に鞭を打って貰い、任期の間務めさせていただきたいと存じます。管内の梅花流関係の各位には、引き続きご理解ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



令和7年11月1日
第54号

発行 梅花流師範・詠範の会
会長 本間雅憲
題字 初代会長・故 加藤信三師
編集者 (広報部) 近藤 俊彦
印刷所 (資) 由利印刷

梅花流師範・詠範の会事務局
全應寺 (大館市) 佐藤 宗明
TEL 0186-56-2325



会長就任にあたり

秋田県梅花流師範・詠範の会会長

浅田高明

追悼



本間俊英師範

令和七年三月六日、由利本荘市内黒瀬・恵林寺二十七世雲巖俊英大和尚（世寿七十歳）がご遷化なされました。平成四年に梅花流特派師範に補任。平成十八年には『梅花流秋田県五十周年記念誌』の編集・刊行を担当。秋田県梅花流の歴史を綿密な記録集として一冊にまとめ上げた功績は、繊細な視点を持つ本間師範だからこそ成し得た特筆に値する仕事ぶりでした。

今回は、梅花流や大本山を通じてご縁のあったお二人の宗侶と、恵林寺梅花講員として長く親交のあったお二人の講員さんから、俊英老師を偲んでご寄稿いただきました。

※写真は令和七年四月二十五・二十六日に厳修された本葬儀の様子です

撮影者・鷹照賢裕師（由利本荘市土谷・萬福寺）

本間俊英師範を偲んで

湯沢市柳町・東山寺住職

柿崎隆穂

三月六日、遷化の報を受けて耳を疑った。一月末の一泊研修会で、いつものように川反での二次会を楽しんだばかりなのに…。

梅花を始めのご縁を頂いたのは、本間師範でありました。

平成に入ってから間もなく、四教区合同の特派講習会が平鹿町・黄龍寺様で開催されたこと記憶しております。県南地区は梅花にあまり馴染みがなく、当日は教典も法具もなく、教典をコピーしたものを使用していた私達と、恵林寺様の講員さんと一緒に講習会でした。「ここに座って」と、解いた師範の法具の前に。撞木の握り方や打鉦の仕方、鈴の持ち方や鳴鈴の仕方など、ひと通りのご指導をいただきました。後日、「本荘の東林寺さんで定期的に梅花の研修会やってくるからおいでよ」と誘われ、ご指導をいただくこととなりました。梅花だけではなく、宗務所の行事等で秋田市に宿泊する時は、夜の街に連れて行ってくれました。

私は、本間師範の事を「師匠」と呼びます。しかし、「俺はお前の師匠じゃないよ」と。いつものことです。それでも、お会いする度にしつこく「師匠」と呼び続け、終いには根負けか、「おう、柿崎君」と言ってもらえるようになり、「今日は泊まり？」「勿論」「今晩行く？」「喜んで」これが挨拶。宴席はほぼ隣り同士、

二次会もほぼ一緒、興に乗れば急にダンスを始め、足が額に着かんばかりのハイキックを披露してくれるなど、楽しかった思い出は尽きません。今後は一緒に席を囲めない寂しさが増してくると思います。

「師匠」のご冥福をお祈りいたします。

合掌



恵林寺東堂・

本間俊英老師を偲んで

千葉県我孫子市・正泉寺住職

玉生正博

本間俊英老師（以後、本間さんと云う）とは、昭和五十五年三月に大本山總持寺に安居した時に、二年先輩で大変お世話になりました。同年、本山知客老師から依頼があり、十月の本山御征忌（開山忌）から本間さんが紫雲臺知客寮に随喜され、翌年四月の報恩大授戒会に私が随喜してから毎年人数が増え、「紫雲臺随喜の会（相見会）」約三十名の会長に昭和六十年より本間さんがご遷化されるまで務めていただきました。

個人的には馬が合う仲であり、特に本山の慶弔会の事務局員として本山に居る時に、「何処に居る？御詠歌の検定試験があり宗務庁に行くので一泊させてもらいたい」と突然電話があり、私の部屋に宿泊した事が何度もありました。不思議なご縁により検定に合格できたと本人も言っております。

大親友の本間俊英老師がご遷化され寂しい限りです。大寂定中品位を増崇されますことをご祈念申し上げます。



祭壇上の遺影



本葬～乗炬仏事（乗炬師・香泉寺大方丈）



大練忌（導師・柴田弘一正伝師範）



東堂さんを偲んで

由利本莊市・恵林寺梅花講員

伊藤 キン

恵林寺東堂さんを偲んで

由利本莊市・恵林寺梅花講員

佐藤 レイ子

「紫陽花の繚にしみる朝の経」

この句は、七年前のある朝、私が畑仕事に行った際、今は亡き東堂様より手入れていたいただいた紫陽花が、静けさの中満開に咲き誇っていたのを見て感動し、そこへお寺さんから朝のお勤めと思われる木魚の音が聞こえてきて詠んだ一句です。今年もその季節を迎えようとしておりますが、庭に淡雪が積もった三月六日、東堂様の旅先での突然の訃報が届き、あまりの驚きで言葉を失いました。思い起こせば、三十七年前に梅花の道へ入った私たちを、いつも穏やかに優しい眼差しでご指導くださった東堂様の在りし日のお姿は、心に染み入るお声と共に決して忘れることはなく、卒寿の私や家族も親戚として大変お世話になりお礼の言葉も見つかりません。ご葬儀では、東堂様のこれまでのご功勞に感謝し、現住職様のお姿にも胸をうたれました。

東堂様、今は残されたご家族様を案じ、愛車のバイクで旅をされていることでしょうか。



總持寺紫雲臺にて(昭和60年頃・玉生師より)

本間俊英老師 経歴

- ・昭和三十一年二月四日生まれ 昭和五十三年 駒沢大学仏教学部卒業
- ・昭和六十三年六月十五日 恵林寺二十七世住職就任
- ・平成二年十二月 梅花流教階「二級師範」補任
- ・平成四年 梅花流特派師範補任(三十五歳)
- ・平成十一年 梅花流宗務所講師補任
- ・昭和五十六年より平成二十七年まで大本山總持寺隨喜、紫雲臺知客寮勤続三十年表彰を受ける

東堂さんの突然の訃報に驚き言葉も出ませんでした。俊英和尚さんの沢山の功績、本当にご苦勞様でした。ご冥福をお祈り申し上げます。

私は東堂さんに送っていただこうと思っていたので、本当に残念に思っております。私は平成元年より恵林寺梅花講にお世話になり、東堂さんは丁寧に行かず、繰り返し繰り返し教えてくださり、段々できるようになった時の喜び、嬉しさ、有り難さ、梅花講に入って良かったと右の手と左の手を合わせて感謝していました。

また、西目・秋田・北海道・東京(武道館)での奉詠大会に参加させていただき、心引き締まる人生一番の体験をし、記念のお土産を買い、今でも見つめて当時を思い起こしております。仲間との会話や参加できたことに感謝しております。

残された人生、東堂さんの優しい遺偈の写真に毎日手を合わせ、「まごころに生きる」をいつも心に唱え、梅花と共に生きたいと思っています。

東堂和尚さん、本当にお世話になりました。ありがとうございました。感謝、感謝、ありがとうございます。どうか安らかにゆくりお休みになってください。



師範と恵林寺梅花講員さんによる献詠

沖縄県
那覇市

令和七年度 梅花流全国奉詠大会

令和七年五月十五日、「沖縄アリーナ」(沖縄県沖縄市)にて、令和七年度梅花流全国奉詠大会が開催されました。アジア・太平洋戦争終結から八十年を迎える本年。激戦地となった沖縄の地で、節目の年に梅花流詠歌をお唱えすることは、改めて平和を誓い安寧を願う貴重な旅となりました。

今回、参加されたお三方に師範・一般・講員それぞれ視点で寄稿文を綴っていただきました。

沖縄梅花大会



南秋田郡井川町・

乗江院住職

佐藤 晃心

この度、梅花流全国奉詠沖縄大会に秋田県の師範・詠範・講員様方合わせて四十一名(プラスゲスト一名)で参加させていただきました。

大会に先立ち、平和記念公園「千秋の塔」前にて読経・追善供養御和讃を奉詠し鎮魂の祈りを、また「平和の礎」に刻まれた沖縄戦すべての犠牲者二十四万二千二百二十五人へ追悼の念を捧げてまいりました。

全国より三千人余りが沖縄アリーナに集まり、

日本に沖縄が返還された五月十五日当日に「梅花流詠歌の「祈り」と「願い」と「誓い」を、ここ沖縄から」という大会テーマのもとに奉詠大会が開催され、終戦八十周年平和記念法要で多くの御霊の安寧、不戦への思いと平和を祈り捧げるのでした。

各管区代表九登壇の奉詠を聞く中、特に東北管区「報恩供養御和讃」秋田の皆さんの素晴らしいお唱えに拍手喝采でした。

清興にて、あさのうら保育園児による「エイサー」で伝統を受け継ぐ踊りと、彼岸御和讃の合唱に驚かされつつ、何ともかわいらしい姿に微笑むばかりでした。

次回開催時、再会を約束して無事大会終了でしたが、サプライズで秋田発?民謡と梅花のコラボ「ゴフシのきいた三宝御和讃」を聞いたのも一興でした。

「はいさい」の元気な声から始まった沖縄の旅。例年であれば梅雨で雨の心配をしている時期でしたが天気恵まれ、沖縄の各地で三線があればすぐに聞こえる歌と踊り。黙っていられないエンタメ和尚からの、その場に居合わせた方々を巻き込んで広まる交流の輪。祈り、歌い、踊り、笑い、沖



慰霊供養の様子

縄ブルーで戯れと、余すことなく過ごさせていだきました。
所長老師はじめ梅花主事様、所員のお二人、平和祈念の旅に御一緒できた皆様に感謝申し上げます。にふえくでくびたん(有難うございました)。

沖縄平和祈念の旅に参加して



大館市

越姓 哲夫

人は死んだらどこへ行くのでしょうか。亡くなった場所に行けば会えるのでしょうか。亡くなった月日には会えるのでしょうか。宗教というもののは本来は死にかかわるものではなく、むしろ生き方の探求にあると聞きますが、死別というどうにもならぬ心の拠り所として、より人の道に詳しいであろう宗教者に、その分野の専門家として依頼するところでしょう。

縁あって、在家にして御詠歌も学ばぬ者が、沖縄戦没者慰霊と、梅花流御詠歌全国大会に参加させていただきました。大会では、まずその規模に圧倒されました。お坊様方の正確無比の模範詠唱を聴いて思うのは、なるほどお坊様方にとっての御詠歌はスキルを研鑽する行であって、在家の有志の詠唱は死者に思いを馳せる慰霊で

あつて、その合唱が八十年の節目に戦災の地の一堂で響いたというの、意義深いものであったと思います。

大会の前日は秋田出身戦没者の慰霊碑にお参りしました。広々とした公園を行くと、斜面に各地の慰霊碑が林立するところがありました。秋田県の慰霊碑、千秋の塔にお参りして、さらに登ると沖縄戦終焉の地に着きました。そこまで行けば自然の丘です。司令部の壕、亜熱帯の森、断崖や砂浜、海が見えました。高い太陽、湿った風、紫外線、秋田の先達の苦難を偲びました。ガイドさんの説明は、米軍を恨まず、日本軍を誹らず、派遣の知事に感謝するというまことに崇高なものでした。

丘を降りて平和の礎では、ある参加者の叔父



登壇奉詠の様子～秋田県



登壇奉詠の様子～全体

様が当地で戦死なされたと聞いて、その御名前を読みました。慰霊の最後の機会として参加なされたと聞きます。

私事です。二月に義母を亡くしました。親族との死別に戦死があった世代が去りつつあります。八十年の節目の慰霊、大会での一堂の詠唱、有意義であれかし。

全国奉詠大会に 参加して



秋田市・

源正寺梅花講員

浦山弘子

私にとって全国大会に参加させていただくのは、コロナ直前の熊本大会以来二回目となります。今回の開催地・沖縄県は初めての訪問です。本年は終戦八十周年を迎えた年でもあり、開催日の五月十五日は沖縄本土復帰の日にあたります。本当に感慨深く、誠に貴重な経験をさせていただきました。

沖縄アリーナでの登壇八組目、東北管区の皆様と一緒に「報恩供養御和讃(一番・二番)」を奉詠させていただきました。宗務所や菩提寺での練習と自宅での復習と何度となく重ねてきていても、初めての登壇で失敗するのではないかと、緊張で胸がドキドキでした。しかし、詠頭のお唱えが始まるとスーとお唱えに入っていくこ

とができ、お隣で素晴らしいお声の方丈様のおかげでいつも以上のお唱えができたように思います。方丈様は秋田県大会ではいつも裏方担当とのことで、登壇は初めてだったそうです。登壇を終えてきたらスタッフの方に「東北管区のお唱えが最高だった!」とお褒めの言葉をいただき、「やはり!!」と納得。他の管区の皆様にももちろん同様のリッパサービスですよ(笑)。

また、大会前日には沖縄に着いてすぐ、平和記念公園の秋田県の「千秋の塔」にて宗務所の皆様の戦没者慰霊法要と、講員の皆様と一緒「追善供養御和讃」を奉詠させていただきました。「平和の礎」にて御霊に手を合わせる事ができました。現在の平和な毎日を送れることが有り難く、二度と戦争を繰り返してはならないという強い思いを改めて心に誓いました。

今後は、未熟な自分を恥じ、梅花の研鑽に励み、一歩ずつではありますが邁進参りたいと思います。



大会参加者の皆さんと





共に梅花を学ぶ詠範さん達と

令和六年十二月十日、梅花流教階「正流詠範」(詠範最高位)を補任された深川典子さんにこの度ご寄稿いただきました。深川さんは、平成十八年にCD録音された「秋田県梅花講の歌」の編曲と曲中ではピアノ伴奏も担当されました。その軽やかで美しい音色は県の奉詠大会でも毎年耳にすることができますね。お忙しい中での原稿執筆に心より感謝、御礼申し上げます。

梅花と共に

梅花を学んできて



能代市萩の台・

長慶寺寺族

深川 典子

梅花を学び始めて四十数年になりました。始めたばかりの頃、もうお名前も覚えていませんが、講師にいられた特派の先生の「修証義御和讃」の自然で心地よいアヤがずうっと耳に残っていて、右脳型人間の私は、あんな風にお唱えできたらいいなとまねるところからの出発だった気がします。そして途切れることなく継続されてきた教区勉強会があったからこそ、私の梅花へのモチベーションが保たれてきたと実感しています。常に一生懸命取り組んできたとは言いがたい四十年でしたが、やっぱり梅花っていいなと思います。お釈迦様やお祖師様たちの教えにも繋がっていただけるような気持ちになります。

一昨年、詠範さん達の応援に背中を押され、正流詠範の検定受験を決意し、一年間柴田先生他、師範の先生方にもチェックしていただいて、昨年何とか合格証をいただくことができました。応援してくださった詠範さん達に感謝し、「次はみんなの番よ、一緒に頑張らしましょう」という思いで、これからも梅花を学んでいきたいと思っています。



梅花を通して様々な場所へ



Another face of 梅花

秋田県梅花流の師範さん・詠範さんには、個性豊かで魅力的な方々が沢山おられます。ふだん梅花をお唱えされている姿とはまたひと味ちがったその横顔をこの場でご紹介させていただく新企画です！



大館市比内町・全應寺住職 佐藤 宗明

十八教区・大館市の全應寺住職・佐藤宗明です。
このたび、新企画のトップバッターにご指名いただき光栄です。
四月からは「師範・詠範の会」の事務局も担当することになりました。
どうぞ皆さん、あたたくお付き合ってください。

さて、まずは梅花を始めたきっかけから。師匠・佐藤仁鳳の影響がすべてです。平成十八年秋、修行を終えて帰郷すると、待っていたのは師匠との二人三脚の生活。冬はご法事も少なく、梅花や声明の稽古に明け暮れる日々でした。それがきっかけで、気づけば九教区の勉強会に混ぜてもらい、ばつかけの会事務局を引き継いで、気がつけば、どっぷり梅花の世界に。その後は、秋田県宗務所の梅花流指導者養成所が始まり今に至ります。

そしてここからは、梅花とは全く関係のない「趣味の世界」へ。まず「金継ぎ」。割れた器を漆でつなぎ、金粉で美しく仕上げるあれです。器の傷を隠すどころか、その「傷こそ美」とするこの技法にすっかり魅了されました。時々漆にかぶれますが、それもまたご愛嬌。

次に「篆刻」。印章を彫るのですが、私は印の持ち手部分にお地藏さんを彫るのが好きで、友人の結婚式には「夫婦地藏」に仕立ててプレゼントしています。なので、手元にほとんど残りません。2つだけ、自分の分がありますので、写真でご覧ください。

宗明さんの趣味の世界



金継ぎ



篆刻



石窯ピザ



お袈裟



大道芸①



大道芸②

お袈裟を縫うのも趣味の一つ。永平寺での修行中にご縁があり、秋田に戻ってから師匠のお袈裟をほどいて、自分の晋山用に仕立てたり、子どもの得度や親友の晋山祝いに縫ったりしています。縫うたびに思いが込められます。

さらに、自作のピザ窯で焼くピザもなかなか評判でして、時々会員制でオープン、幻の味です。そして時にはピエロになって大道芸や手品も（ほんの賑やかし程度ですが）。そんなこんなで、好きなことにはいつい全力投球。細かい作業を黙々とやっている時間が、実は一番の癒しなのかもしれません。紙面の都合で今日はこのあたりまで。またどこかで、皆さんにお披露目できる日を楽しみにしています。



梅花インフォーメーション

令和七年度 梅花講員一泊研修会

◆ 県北地区

・ 期日：十一月十二、十三日（水・木）

・ 午前十時受付 午前十時三十分開講式

・ 会場：大館市『矢立ハイツ』 定員六十名

・ 申込〆切：十月末まで

【申込・問合せ】 電話〇一八六―二三―二一五七

鹿角市花輪 長年寺内・松井祐司

◆ 中央・県南地区

・ 期日：十一月十七、十八日（月・火）

・ 午後十二時二十分集合 午後一時開講式

・ 会場：男鹿市『海蔵山大龍寺・楽水亭庭園』

・ 定員三十名程度

・ 申込〆切：十月末まで

【申込・問合せ】 携帯電話〇九〇―六六八四―二三七七

男鹿市船川港 大龍寺内・三浦賢翁

◎両会場とも、対象は檀信徒講員、師範・詠範、初心者等どなたでもご参加いただけます！
◎今回は、県内師範による通常講習の他に、特別講師として、県北地区では「民謡歌手の河田カツ子さん」（二日目）、中央・県南地区では「民謡歌手の藤原美幸さん」（二日目）をお招きしてプロならではの発声や技法を交えた講習をしていただく時間もございます。貴重な機会になるかと思いますので沢山の皆様のご参加をお待ちしております！

平成十六（二〇〇四）年発行の「同行」第二十二号から掲載が始まり、約二十年間お届けして参りました佐藤俊晃先生執筆の「梅花のふるさと」詠讃歌の生まれた風景も、非常に残念なお知らせですが前号を以って終了となります。深い知識を携え、時に実際に歌が生まれた土地に自ら赴き紡がれた数々の文章は、多くの読者に深淵なる詠讃歌の歌詞の魅力を伝えてくれました。もしかした

らまた別の連載が始まる可能性もなきにしもあらず。密かに期待しつつ、俊晃先生、長期連載の御執筆誠にお疲れさまでございました。

曹洞宗秋田県宗務所

QRコード



スマートフォン等で読み取ると、『同行』過去号から最新号まで閲覧できます。



投稿・感想等々、大歓迎です！

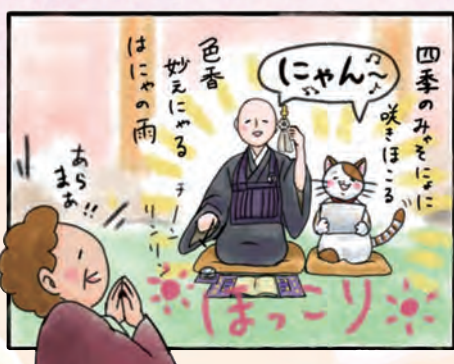
〒018-0604

由利本荘市西目町沼田字敷森27 円通寺（近藤）

☎0184-33-3049

にゃんとしんりん

作：かん太



◎秋田県梅花流機関誌『同行』は、毎年二回（不定期）発行を続けて参りましたが、昨今の発送代及び印刷代等経費の高騰や梅花講員減少に伴う発行部数減などを検討した結果、令和七年度より毎年一回（不定期）の発行に変更いたします。

〽おしらせ〽